



福島県在住初の芥川賞作家 東野辺 薫 (1902~1962)

明治35年(1902年)3月9日小学校長・野辺保蔵の長男として旧二本松町に出生、本名は野辺慎一。旧制安積中学校(現・県立安積高等学校)を経て、大正12年(1923年)早稲田大学国漢文科を卒業後、長野県の旧制大月中学校教師となる。大正15年(1926年)旧制安達中学校に赴任し、以後会津、保原、福島女子等の各旧制中学・高校の教師を歴任した。

教職のかたわらに創作に精進し、昭和5年(1930年)戯曲「黎明を待つ人々」を東京旭出版部から刊行。同16年『毎日新聞』の懸賞小説に応募した「国土」が1位当選し『サンデー 毎日』9月より12月まで17回にわたって連載された。

昭和18年(1943年)9月、『東北文学』1号に発表した「和紙」で第18回芥川賞を受賞、翌年『文藝春秋』に転載され一躍脚光をあびた。この小説は、旧安達町上川崎の紙漉き集落が舞台で、戦争という極限状況のもとにおかれた農民の哀しみをさりげなく、しかもほのぼのとした温かさを感じさせる佳作であり、戦争末期に出版統制の厳しさの中で、純文学の灯をまもった作家の一人であった。

選者の横光利一は「『和紙』は整理に苦心を払った美しい作品である。手に余った滴りのないのが難点かと思われるが、上手の腕から水は洩れていない教養がうかがわれ、読後の感は刺戟を残さず無事な纏まりに好意を集めた。」と評価している。



昭和23年(1948年)『福島民友新聞』に「女体軌跡」を連載、その後『北陽芸術』の創刊号・第2号に戦後の代表作「人生退場」を連載した。これは勧告を受けてから校長離任式の日にいたるまでの、いわゆる大物校長のあがきを衝いた作品である。

日本ペンクラブ会員であり、県文学界の発展にも大きく貢献したが、昭和37年(1962年)6月27日福島市の自宅において病気のため60歳で逝去した。法号「文秀院慎光浄薫居士」、龍泉寺(市内二伊滝)に眠る。昭和53年、市民有志により観音丘陵遊歩道の成田園地に『和紙』の自筆原稿の1節を刻した文学碑が、また令和4年には、上川崎住民センター敷地に「和紙の里の碑」が建立されている。



二本松ふるさと人物史
二本松市ウェブサイト

二本松警察署からのお知らせ

犯罪発生状況(令和4年1月~4月末)

	二本松地区	安達地区	岩代地区	東和地区	合計	前年対比
侵入盗	1				1	-1
空き巣						
出店荒し						
その他	6(6)	1		1	8(6)	6
非侵入盗	1	6(1)			7(1)	-11
車上ねらい			1		1	1
その他		5(2)			5(2)	-3
自転車盗						-1
器物損壊	2(1)		1(1)		3(2)	-2
住居侵入		1		1	2	2
その他	5(1)				5(1)	-2
合計	15(8)	13(3)	2(1)	2	32(12)	-11
前年対比	-5	-6	-2	2	-11	

※()は4月の発生件数



地域で子供の見守りを!!
日常生活の中、気軽にできる「ながら見守り」活動の協力をお願いします。



二本松地区防犯協会連合会では、自動録音機を貸し出しいたします。

なりすまし詐欺や悪質商法の被害防止のため、不審電話撃退装置無償貸し出し中!

希望の方は二本松警察署にご相談ください。



POLICEメールふくしまに登録されましたか?

~県内の登録者数が4万7千件を超えました!~
二本松署管内登録者1500件以上

警察から身近な犯罪の発生情報、なりすまし詐欺被害防止情報、不審者情報をメール配信しています。
まだ登録していない方は是非登録をお願いします。



登録専用アドレス(QRコード、または pmf01@uh28.asp.cuenote.jp)

に空メールを送信してください。

二本松警察署電話 23-1212